

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年3月1日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670300823号
法人名	有限会社 サフラン
事業所名	グループホーム ヴィラ サフラン
所在地	鹿児島県鹿屋市郷之原町12584番地 (電話) 0994-42-7220
自己評価作成日	平成26年3月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	-----------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年3月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「のんびりとした時間をすごしながら、今までと変わらない暮らしの中で、“お一人、お一人様の思いと家族の絆と地域とのふれあいを”大切にしながら心のこもった介護をめざします」を理念として、地域包括ケアの一役を担うことを目的し、ホームに於いてはご利用者の皆様が、日々元気に過ごして頂く様に、鹿屋訪問看護ステーションとの医療連携の契約を結び、主治医、鹿屋在宅支援診療所の医師との連携を蜜にして健康が保たれるように健康管理を徹底しながら、もし身体状況が悪化した場合においても、ご本人、ご家族の希望でホームでの看取り介護も行おう等、最後まで同じ環境の中で、安心した生活が送れる様に、支援をしています。昨年末にはホームを活用した共用型認知症対応型通所介護を開設し、通所のご利用者様を迎え入れた、地域に開かれた認知症ケアの啓蒙啓発に努めています。此れまで、併設のデイサービスセンターを活用し、四季の催しや日々の行事等へ参加し、その中での地域住民、関係者等との触れ合いを通じて地域密着性を深めながら、参加者への認知症の理解や、認知症ケアの啓発に努めています。高齢者配食サービスの事業も併設され、この機能を生かして、食に関する栄養士の栄養管理も行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホームは、鹿屋市郊外の閑静な住宅地にあり、デイサービスやフードサービスを併設し日曜日以外の食事は同グループ内のサービス事業所から配食を受けている。隣接するデイサービスとは、地域交流や行事など、合同で交流している。
- ・春には、ホーム前の道路や近くの公園の桜見物ができ、四季折々の季節を感じる事ができるよう外出を支援したり、ホームのウッドデッキから景色を見ながらお茶を楽しんだり、日光浴をするなど日常的に外気に触れ普段通りの変わらぬ生活が継続できるよう支援している。
- また、秋には、名前由来の“サフラン”が咲き利用者の楽しみの一つになっている。
- ・職員は、外部研修や法人の研修に参加し、スキルアップを図るとともに資格取得にも積極的で職務に対するモチベーションも高い。今年のスローガンは、“夢”であり、職員一人ひとりの目標設定になっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくサービスとして事業所独自の理念「のんびりした時間を過ごしながらか今ままで変わらない暮らしの中で、お一人、お一人の様の思いと家族の絆と地域の触れ合いを、大切に心のこもった介護をめざします。」を作り上げて、関係職員一同その理念を共有して実践につなげている。	“その人らしく地域で暮らし続けるために”を基礎的理念にしてホームの具体的理念は、平成18年には見直しもしている。理念を玄関やホームのあちこちに掲示して職員会議などで唱和し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる恒例の特攻隊の慰霊祭へは、毎回参加し、施設主催の創立記念、敬老会、秋祭り、餅つきには地域の皆様、ご家族を招待して、ボランティア、小、中学生のふれ合い活動の受け入れ、隣接のデイサービスの利用者様との交流も積極的に行い、事業所もオープンにして警察所の立ち寄りもあり、地域の一員として交流をい。	町内会に加入し、代表者は総会にも出席して地域の一員として交流を図っている。利用者は、隣接のデイサービスに出かけ行事や地域の方々との交流会、幼稚園、保育園児とのふれあい、中・高・大学生の体験学習の受け入れをして地域貢献している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	毎年開催しています創立記念祭、敬老会、秋祭り等に地域の皆様を招待した際、又、ふれ合い活動でのボランティア、学生の受け入れ時や運営推進会議の開催時に実践を通じて積み上げた認知症の理解や支援方法を、生かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議毎に、ご利用者皆様、ご家族様のご希望とサービス内容評価への取組状況等について報告を行い、委員の皆様からの素直な意見等を、積極的に頂きながら話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	会議は2ヵ月に1回開催され、行政、町内会長、老人会長、副会長、民生委員、家族代表、利用者代表、職員とメンバーはいつも協力的で出席も良い。会議では、利用者の支援状況を報告、事業所の悩みや心配事などメンバーから助言をもらうなど意見交換して解決に尽力している。議事内容は、毎月のホーム通信で家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関しては、市の担当者、地域包括支援センターの担当者に日頃から連携を密に取り、事業状況やケアサービスの取組状況等、又、事故や問題が生じたら直ちに相談して指導助言を受けながらサービスの質向上につなげている。	市担当者、地域包括支援センター職員とは日頃から積極的に連絡を取り指導や助言をもらう良好な関係がある。普段は、電話で連絡を取ることが多いが、困難なケースの事案や事故など問題が発生した場合は、迅速に行動し連携を図るよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置して、社内での勉強会やミーティングの時など代表者及び全ての職員が禁止となる具体的な行為を理解している。	勉強会、ミーティング、月例会などで身体拘束について再確認しながら、身体拘束のないケアの実践に向けて取り組んでいる。契約書で「身体不拘束」を謳い、「身体拘束などの排除理念及び方針」を玄関にも掲示している。利用者・家族には入居時説明し、同意をもらっている。玄関は、施錠せず外に興味を示す利用者などには、さりげなく付き添い、「見守りは威圧感がない距離間で自然体に」を心がけケアしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議や、社内研修で虐待防止についての理解し、また身体拘束委員会を設置して虐待防止法に向けての取り組みを行っている。またグループホームのカンファレンスでも虐待防止について話し合いを行い、スタッフも虐待について周知できている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等を通じて制度について学ぶ機会があり理解し、活用できる支援をしているが現在の所必要のある方はなく、今後必要な方に対して活用できるように引き続き支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の際は、ご利用者様やご家族の不安や疑問点を聴取し、契約書、重要事項説明書を元に十分な説明を行い理解、納得して頂いた上で手続きを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約に時苦情方法や関係機関について説明を行い、重要事項説明書の中にも書かれている。またホーム内玄関にも、お気付箱を設置し、運営に関するご家族の意見を反映させている。	利用者には、日々のケアの中でコミュニケーションを取りながら意見や希望を聞くようにしているが、アンケートも実施している。家族には、電話や面会時、担当者会議の時に意見や要望を聞いて出された意見などは、職員全員で話し合っケアに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内の研修会の中で意見や提案が自由にだせる機会が設けてあり、代表者や管理者は、運営に関する職員の意見を反映させている。	職員は、月例会やミーティングの中で意見交換したり、毎月「職員としての心構え」を発表して、意識を新にし、サービスの質の向上や業務の見直しなどに役立っている。また、管理者は個別に職員と面談し意見や要望など聞く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内全体の管理者会議を月2回行い、代表者も職場や職員の状況を把握している。毎月1回の社内全体会議においても直接思いを伝える機会もあり、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じて、育成計画を立てて研修の啓発に取り組んでいる。また研修の案内があった時は職員の希望も入れて積極的に研修に参加している。研修後は研修報告を作成して回覧し、全体月例会議で研修発表を行い、社内研修に活かしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム協議会開催の研修に参加したり、市役所開催の研修会に参加して、課題の解決を図り、サービスの向上につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設を見学して頂いて、その際にご本人が困っている事、不安なことを聞き取り、納得理解していただき、不安の軽減に努め、要望等のサービスが図れる様努力をする事理解を頂き信頼関係の構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を見学していただき、その際に、ご家族の相談事、困り事を十分に聞き取り、施設理念の説明を行い納得理解していただき、不安の軽減に努め、要望等サービスが図れるような努力をする事理解を頂き信頼関係の構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況の悪化、要介護状態の回復等ご家族が不安を訴へられる時は、その希望に添えるように相談に乗ったり、状況に応じて医療、地域包括センター等と連携しながら他のサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と寄り添い過ごす過ごす時間を多く持ち、過ごす時間の中でも喜怒哀楽を共感しながら、人生経験等をうかがう機会も多く、その中で利用者様から教えて頂く事柄も多く共に支えあう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の存在はとても大切であり、情報提供はこまめに行い、運営会議の家族代表を通じ、又ご家族の面会の際、情報提供を密に行い、喜怒哀楽を共感しながら一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の想いを尊重して地域の仲間との関係の継続や併設のデイサービスに出かけて馴染みの人との関係を保つ等、嗜好品等の買い物に近所に出かけたりしている。	日常的には、近隣のスーパーに買い物目的で散歩に出たり、病院受診の帰りに寄り道してドライブしたり、美容院に行く利用者を支援している。また、毎年5月に小学校のOB会・同窓会に参加される方や、ホームで籠作りをする同じ趣味の知人や友人の方が訪問してくださるなどホームはいつも人の出入りや往来があり活気にあふれている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い助け合い、支えあいの暮らしをして行けるように支援をしている。洗濯物をたたんだり、テレビ鑑賞を一緒にしたり、チラシ折りをし共感されお互いとてもいい関係ができて支えあって生活をされている		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体状況の悪化で、長期入院が必要となり、ご家族が契約を終了、同時に入居申し込みをされたご家族が1名あった。契約が終了しても最後までご本人、ご家族との関係は大切に、病院との連携は積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々生活される中で、気持ちや思いが表現出来たり、状況や表情を感じ取れるようにしている。困難な場合でもあらゆる選択しを検討しながらご本人を理解、納得していただき落ち着いた時間を過ごせる事ができるようにしている。	日々の生活やケアをする中で、本人の言葉やしぐさ、表情、行動、入居前の生活歴などを見ながら職員は本人の思いや希望はどこにあるのかミーティングで話し合いを持って本人本位のケアに努めている。利用者向けのアンケートもケアのヒントになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込みの時、または入居時に本人、家族、居宅支援事業所から聞き取りを実施し、成育歴、生活歴や馴染の暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々皆様の暮らしや生活リズム、心身の状況変化は早期に気づかできるように努めると共に、有する能力等現状を総合的に把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況、精神x状況の変化時又介護保険更新時、本人、ご家族の希望時はカンファレンスを行いモニタリングしている。ケアカンファスを開催して介護計画の一連のおプロセスでサービス計画を作成している。	月2回カンファレンスをおこない、本人の思いや意向を職員全員が理解し、情報を共有してチームで介護計画を作成している。また、担当者会議には、家族の参加を促して意見を聞いている。3ヵ月ごとにモニタリングを行い、半年に1回は短期目標の見直しをしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容を加味しながら、日常生活の様子や日々の体調変化、実践、結果、気づきや工夫を個人ファイルに記録して残し、また申し送り等を行って情報を共有しケアの向上につなげている。その中でサービス計画につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションと医療連携を行い、週1回訪問を受けている。近く共用型認知デイサービス開く予定である。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会長、老人会長、民生委員、小中学校校長、警察の方など施設行事に招待したり、地域のボランティアの方も積極的に来ていただいている。地域の小学校、中学校、体育大学の体験、研修も積極的に受け入れ、日々警察の立ち寄り所となっている。地域資源との協働の支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人ご家族の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられ、安心して生活が送れる支援をしている。	訪問診療や外来受診にて定期的な診察や検査などが受けられ体調管理ができるよう支援している。他科受診も必要に応じて支援しており、その都度家族に報告している。体調不良時は、往診や訪問看護ステーションと連携し、症状が悪化などしないよう努めている。また、専門医に内服薬の相談をするなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約して週に1回健康チェックをしてもらい、日常の健康管理に努めている。その際身体状況について申し送り、助言指導に基づいき主治医との連携を図りながら元気で過ごせる支援をしている。日常的に身体状況の変化時も相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院生活は環境の変化で精神的な負担が最小限にすむように、主治医、ソーシャルワーカーと情報交換や相談に努めていると共に、日頃から連携を密にしてそうした場合に備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に関わる指針を作成して入居時本人、ご家族に説明理解していただいている。終末期は家族、主治医、訪問看護師等と密に連携をしながら全員でカンファレンスを開き方針を共有している。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時に説明・同意をもらっている。昨年、看取りの事例がある。段階に応じて、主治医、家族、訪問看護ステーション、各関係事業所が話し合い、方向性を検討しチーム支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護ステーションと契約を行い、週1課の定期的な健康チェック、24時間いつでも連携体制ができています。急変時、事故発生時など助言、指示を受けている。スタッフも社内会議等緊急時の対応について研修を受けながら向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火管理者による消防計画に基づき災害訓練を年2回行っている。訓練には近隣の方も参加いただいている。災害時の協力要請をお願いして快く承諾を得ている。また地域の防災関係機関へも日頃から働きかけ協力が得られるようにしている。</p>	<p>夜間を想定した避難訓練を年2回開催し、民生委員や職員が近所に居住しているため安心しており、地域の住民にも協力者として登録してもらっている。災害時は、市の協力も得られるよう担当者と確認ができている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の、プライバシーを損ねることのないように、生育歴、生活歴をくみ取り言葉かけや対応等を大切に尊厳を守るケアを行っている。記録など個人情報については入居時に必要な情報の同意を得るなどして承諾をいただいている。	利用者には、丁寧な言葉使いや態度で日々臨み、「やさしい声かけやことばはなによりのごちそうである」は、職員全員に浸透、意識づけされている。排泄の声かけや入浴の誘いなど本人のプライドや羞恥心に気をつけてケアしている。また、個人情報についても十分注意して取り扱うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースに合わせた言葉かけを行い、寄り添いながら状況の観察を行っている。それぞれの思いや希望を気軽にはなせるように、食事や食後団欒の時間等を交えて導き出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの暮らし方や生活リズム、身体状況の変化は早期に気づきができるように努めていると共に有する能力等の現状を総合的に把握している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々それぞれのその人らしい身だしなみ、洋服美容院等の支援をしている。洋服は自分で選んで自分で楽しみ、気分によってはきれいに化粧等身なりを整えて日々の生活が送れる支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活の中でとても楽しみとなるように、特に朝食は個別的に希望に沿って対応している。パン食、みそ汁に落とし玉子、納豆等元気の源となっている。能力に応じて下膳等もお願いしている。	通常は、隣接した施設から配食を受けているが、日曜日だけは朝・昼・晩ホームで調理している。栄養士による栄養管理とは別に、本人の希望する料理を提供し下膳だけは希望される方に手伝いをもらっている。また、月1回は、嗜好調査実施し、誕生日は、本人の好きな料理を作り、皆で祝っている。また、クリスマス会は、デイサービスと合同でおこない楽しんでいる。テラスでのお茶やバーベキューも利用者の楽しみの一つになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や栄養バランスについては主治医の指示や社内の栄養士のメニューを提供している。水分量は個々の身体状況に合わせて主治医に相談して指示どおり必要な水分量が確保できている。1日を通して一人、一人にの習慣に応じた支援を行うと共に食事量、水分量は記録を通してスタッフ全員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々健康管理の中で口腔ケアは健康を維持するために大切なケアであり、毎食後それぞれの能力に合わせて働きかけたり、介助の支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンの把握を行っている。排泄パターンに基づいて定時、もしくは随時誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者ごとの排泄チェック表などで情報共有して、個別対応している。排泄の声かけは、プライドや羞恥心に配慮しつつ失敗があった場合などは、特に注意している。また、専門職によるオムツの勉強会を開催し製品情報の習得、メンタルケア、褥瘡予防など学習している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活動作の中で運動や毎日歩行訓練を働きかけている。バランスの良い食事や飲水を促し自然排便を心掛けている。排便は精神状態との関係が繋がっていることから、便秘時は速やかな排便があるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は毎日希望を取り入れて皆様がほとんど毎日入浴を楽しまれている。入浴の順番は毎日表示して順番を見る事も楽しみとなっている。	入浴は、毎日午後からゆっくりと、入浴剤も入れ楽しんでもらえるよう支援している。また、入浴の順番は毎日変え公平を図ることが利用者の安心感に繋がっている。浴槽への入浴が困難になった場合は、デイサービスに設置してある機械浴を使い入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休息したり、身体状況で安静にの支援をしている。夜間は徘徊など状況に応じてお茶を飲んで頂くなど眠れるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が確実にできるように、準備、手渡し等本人の能力に応じて対応し記録している。新しい薬が処方された場合は、各勤務申し送りスタッフが周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々それぞれの生活歴や能力を活かした洗濯干し、洗濯たみ、戸締り等役割を持ってもらえる支援をしている。隣設するデイサービスとのイベントなどは楽しみのひとつで地域の方と交流で気分転換になっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	9名様、お一人おひとりの希望にそって自由に外出の支援を行っている。散歩、買い物、美容院等その日の希望に添って戸外へでられるように出られるように支援をしている。	年の初めは、近くの神社に初詣に行くことから始まり、日常的には、テラスに出て日光浴したり、買い物から散歩やドライブ、季節の花見やいちご狩りなどで季節が感じられるよう利用者の希望を聞き計画・実施している。また、利用者の希望により趣味の仲間との食事会や家族との墓参り、美容院への外出など支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は9名中2名の方が自己管理されている。買い物に出かけたり、病院受診代、美容院の支払いをされている。領収書のみ出納帳で管理し、現金は1か月に1回本人と一緒に確認している。毎月ご家族にも送付している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	生活の中で電話は自由に掛けて取次ぎもやっている。年賀状のやりとりをされて、遠方のご家族の元気な様子に喜びながら自分の生きる糧になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は家庭的で入りやすく、ホーム内は和風の広々とした雰囲気である。不快な音、光はない。玄関には季節の生け花をご家族が生けて頂いている。ソファー、畳、テーブルやウッドデッキなどどこでもくつろいで頂けるよう、居心地よく過ごせる良い空間を整えている。	ホームは、高台にあるため、広々としたリビングからまわりの景色が一望できガラス張りなので、四季の移り変わりを粒さに感じることができる。庭には、ホームの愛犬がいて、動物好きな方は、餌やりするなど世話をすることで気持ちが落ち着き表情が穏やかになっている。玄関には季節の花が生けられて、壁には、利用者の写真や作品が掲示してあり手作りの籠や調度品も飾られている。リビングから直接テラスに出入りすることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々利用者同士で思い、思いにのんびりした時間が過ごせる空間の中でチラシ折りでゆっくりした時間を過ごされたり、会話を楽しんだり、自由に過ごせる居場所の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等本人ご家族と相談しながら、使い慣れた家具や布団等馴染み深いもの等、本人が居心地良く過ごせるような部屋作りを工夫して、落ち着いた時間を過ごされている。	本人の希望する使い馴染んだ家具、寝具、仏壇、神棚、化粧鏡、電気ポットにお茶セットを持ち込み居室でもお茶を楽しんだり、冷蔵庫、観葉植物を多種多様に部屋に置き、水やり、手入れを楽しむ利用者もいる。また、家族とのふれあいの写真など置いて居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は自由に動ける広々としたスペースがあり、ウッドデッキも車椅子で自由に入りされている。トイレの表示もしてあり、それぞれの能力に応じて自立支援を目指している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない